

<スポーツ健康科学科> 高等学校教諭一種免許状(保健体育)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「基礎教養系科目」を履修し社会人としての教養を身に付けるとともに、「基礎演習Ⅰ-1」を通して、基礎学力やスポーツ実践者としての心構え・マナーなどを身に付ける。
	後期	前期同様に「基礎教養系科目」を履修し社会人としての教養を身に付けながら、「基礎演習Ⅰ-2」を通して、社会の中の体育・スポーツの果たす役割について考えを深めるとともにそのための知識を理解し、専門科目へ進むための基礎力を身に付ける。
2年次	前期	「専門教育系科目」を履修する中で、スポーツ実践全般における基礎となる知識・実践方法、ならびに教職の基本的理論・概念を修得する。また、「基礎演習Ⅱ-1」を通して、スポーツ実践および指導等に必要不可欠な「自ら学ぶ」姿勢を身に付ける。
	後期	前期に引き続き「専門教育系科目」を履修する中で、特に教職に関する知識を深め、次年度以降に実施する実習科目に向けて準備を整える。また「基礎演習Ⅱ-2」では、次年度から行われるコース制を踏まえ、自分自身の将来的なビジョンを構築するために必要な知識の修得、実践活動等を行う。
3年次	前期	それぞれのコースの特色を十分に理解した上で「専門応用科目」に取り組み、コースに応じた専門知識・実践力を身に付ける。また、「専門演習」等を活用し、実習を通して教職に関わる現場を理解するとともに、実習を振り返る中で今後の自分に必要となる知識や経験を明らかにし、それを修得するための計画を立て、実行する。
	後期	教職の現場を常に意識しながら「専門応用科目」に取り組み、実践力を身に付ける。また、「専門演習」等を活用し、実習によって得られた教職現場の問題点について、これまでに身に付けた知識・経験を利用して解決法等を考案することができる。
4年次	前期	「卒業研究」における卒業研究の取り組みの中で、それぞれのコースの特色を活かして教職現場の問題解決に関する仮説を提案し、その検証のために、これまで身に付けてきた知識・指導技術・研究手法等を活用する。また、教職現場で必要不可欠な記述力やプレゼンテーション力に磨きをかける。
	後期	「卒業研究」の実施を中心に、これまでの学習や実習を振り返り、教員として活躍するにあたっての自らのストロングポイント・ウィークポイントを明らかにし、ウィークポイントをカバーするための知識・経験を補うとともに、ストロングポイントを更に伸ばしていくために必要な能力を身につけるための戦略を立て、実行する。